

## 1 中学年用「いただきます」 指導例

物質的に豊かな現代において、食べ物や食に関わる仕事など生活を支える人々への尊敬や感謝の念を児童に育む機会は減ってきている。食べるという営みを通して他の生き物の生命をもらいながら自分たちが生きていることに気付かせ、生き物の生命への感謝とともに、食べ物として手もとに届くまでの様々な仕事している人々への感謝の気持ちを育てることをねらいとして、本資料を作成した。

本県大和郡山市の食肉流通センターには、家畜として人間のために役立つくれる生き物への感謝を込めて「屠畜慰霊碑」が建てられており、人権教育テキスト『なかま 中学年用』（奈良県人権教育研究会 編）所収の「なき声以外は、ムダにしない」の中にも取り上げられている。同様の建造物は全国にあり、本資料では、隣県である和歌山県の「くじら供養碑」を取り上げている。主人公が父と和歌山に帰省した折に、祖母の料理や「くじら博物館」等の訪問を通して、食物として自分たちの生命を支えている生き物や、暮らしを支える様々な仕事をしている人々に対する感謝の念を深める姿を描いている。本県の「屠畜慰霊碑」ともつなげて、生命への感謝を忘れず暮らしを営んできた人々に思いを馳せさせたい。こうしたことから、「なき声以外は、ムダにしない」の内容を生かして本資料を活用することが効果的であり、既習であれば別掲の資料を活用し、展開後段に学習を振り返らせることもできる。

なお、「なき声以外は、ムダにしない」とされていた牛であるが、現在はBSE対策として、脊柱をはじめ、頭部や脊髄などは焼却処分される部位があり、血液も使用されていない。

- ◆ **主題名** 「いただきます」の心 指導内容 中2-(4)
- 資料名** いただきます (奈良県郷土資料 県教育委員会)

### ◆ ねらい

和歌山での様々な経験を通して、食べ物に対する父の思いを実感し、自分の身近な生活の中でも命を「いただく」ことに感謝しようとするようになった主人公の心情の変化について話し合うことを通して、食物として自分たちの生命を支えている生き物や、暮らしを支える様々な仕事をしている人々に対して、感謝しようとする態度を育てる。

### ◆ 展開

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、今日の給食の献立を見る。	○ 今日の給食の献立を見てみましょう。 ・ビビンバ大好き。牛肉がおいしい。お代わりあるかな。 ・牛乳は冷たくないと思えない。	・自由に話し合わせ、本時の資料への導入とする。	
展 開	2、資料「いただきます」を読んで話し合う。	○ 夕食の時、サトコはどんな気持ちから「いただきます。」と言ったのでしょうか。 ・夕食を作ってくれたお父さんへのお礼。 ・言わないとおこられるから。 ・何も考えずに言っている。	・魚が苦手な主人公の気持ちなどを押さえながら、父の「いただきます」という言葉に対する思いに気付いていない主人公に着目させる。	

展		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ おばあちゃんやお父さんの言葉を聞き、サトコはどんなことを思ったでしょう。</li> <li>・魚っておいしいんだな。骨まで食べられるんだな。</li> <li>・おばあちゃんは食べることを、命をいただくって言った。お父さんの気持ちも同じなんだ。</li> <li>・魚の命を無駄にしないように工夫をしてきたんだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「命をいただく」や「魚にもうしわけない」という言葉や、とった魚を無駄にしないように丸ごと食べたり、保存の工夫をしたりしてきたことから、祖母や父の魚の命に対する感謝の思いに気付かせる。</li> </ul>	
開	3、自分を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「くじら供養碑」を見て、サトコはどんなことを考えたのでしょうか。</li> <li>・漁師さんたちは、とった鯨の命をとっても大切にしてきたんだ。</li> <li>・魚も鯨も命を無駄にしないように工夫してきたのは同じだ。</li> <li>・お父さんが「いただきます」をうるさく言っていたのは、命をいただくからなんだ。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ いつもより大きな声で「いただきます」と言ったサトコは、どんなことを考えたのでしょうか。</li> <li>・奈良県にも「屠畜慰霊碑」があったんだ。生き物の命に感謝する気持ちは同じなんだ。</li> <li>・苦手な食べ物も、残さず感謝して食べたいな。</li> <li>・食べ物を届けてくれる人や給食を作ってくれた人にも「いただきます」と言おう。</li> <li>・これからは食べ物のことをもっとしっかりと考えて、大切にしていきたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食べ物を大切にしたい、感謝して食べたいと思ったことはありませんか。</li> <li>・食べ物が腐ってしまったとき。</li> <li>・食べ物のお店で働いている人から話を聞いたとき。</li> <li>・乳牛を見たとき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「くじら供養碑」をつくった人々の気持ちに思いを巡らせるようにし、魚を食べる工夫や鯨の体を無駄にしない工夫は、生き物の命への人々の感謝の心のあらわれであることに気付かせ、父の「いただきます」に込めた思いに気付いた主人公に共感できるようにする。</li> <li>・奈良県にも同じように生き物の命に感謝する碑があることを知った主人公の心情とともに、命をいただく生き物に対してだけでなく、生き物の命を大切にし、食べ物として自分たちのもとへ届ける仕事をしている人々がいることに思いを至らせるようにし、「いただきます」に込めた感謝の念を深くとらえられるようにする。</li> <li>・生活経験や、生活科・総合的な学習の時間などに感じたり考えたりしたことを想起させ、実感をもって考えられるようにすることで、実践意欲や態度を育てる。</li> <li>※別掲の資料を活用する場合は、ここで「なき声以外はムダにしない」の学習を振り返らせるとよい。</li> </ul>	ワークシート
終末	4、指導者の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「こころのノート 小学校3・4年」(平成25年度版) 51ページを開きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「心のノート」のまど・みちおさんの詩「朝がくると」を読んだり、指導者の体験を話したりして、生活を支える様々な人・こと・ものに対する感謝の気持ちを温める。</li> </ul>	「心のノート」(平成25年度版)

# 「いただきます」

あつ、魚や。いややなあ。今日の夕ごはんのおかずは魚。だいたいお父さんは、自分が魚が好きだからって魚料理多すぎる。お母さんは、お父さんが料理当番のときは何も言わずにここにこしてるだけやし。わたしが魚苦手なの知ってるくせに。

「いただきますあす。」

しかたなくわたしは食べ始めた。「『いただきます』ってちゃんと言ったか。」というのがお父さんの口ぐせ。もしわすれたら大目玉。

「いやそんな声やと、魚に悪いで。」

お父さんはわらいながらそう言う。

「りょうしさんがくろうしてとった魚やしな。『いただきます』って言ってるけど、サトコは何をいただくんや。だれに言ってるんや。」

また、お父さんのお説教が始まった。そんな夕ごはんを「いただきます」やし、作ってくれたお父さんに言ってるに決まってるやん。するとお父さんが言った。

「夏休み、和歌山のおばあちゃんちに行くやろ。そのとき、いいとこ連れて行ったら。」

夏休みに入って、わたしたちは和歌山のおばあちゃんちに行った。和歌山県はお父さんのふるさと。海のすぐそばで海水浴もできるし、わたしは大好き。

「サトコ、よう来たな。まあ上がり。」

おばあちゃんは、いつもやさしいえ顔で出むかえてくれる。

「サトコおいしいもん食べさしたると思って、近所のりょうしさんにたのんでたんや。」

おばあちゃんが持ってきた白い発泡スチロールのケースを開けると、中にはイワシやアジな  
んかがいっぱい入ってる。ありや、まさかの魚。

ピカピカ光るイワシを、さっそくおばあちゃんがさし身みにしてくれた。せっかくおばあちゃん  
がわたしのために用意よういしてくれたんだし。おそろおそろわたしはイワシを口に入れた。

「おいしい。」

本当においしいよ、おばあちゃん。すると、小さなアジを包丁ほうちようでほねごとたたきながら、お  
ばあちゃんが言った。

「そうやろ。こうしたら、ほねまで食べられるで。生きのいい魚はうまいし、ほねごと食べた  
ら体も強くなる。魚の命いのち、丸ごといただくいてるんやからな。」  
なるほど。体が強くなるのはうれしい。ん、命をいただくって。

「あまった魚は煮付にっけけたり、開ひらいてひ物もの  
にしたりするんや。そしたら日持ひもちす  
るしな。くさって食べられんようにな  
ったら、とった魚にもうしわけないや  
ろ。命ムダにしたらバチ当たる。」

お父さんがそう言った。「とった魚に  
もうしわけない」か……。

次つぎの日、お父さんが前に言っていたい

ところに連れて行ってくれた。太地町たいじにある「くじらの博物館はくぶつかん」。くじらりょうのことなどが  
とてもくわしく分かって楽しかった。それに、くじらのひげは昔むかし、おもちゃのゼンマイに使つか  
われていたこととか、あぶらからローソクやけしよう品ひんが作られていたことなんてぜんぜん知ら  
なかった。びっくり。



くじらの博物館

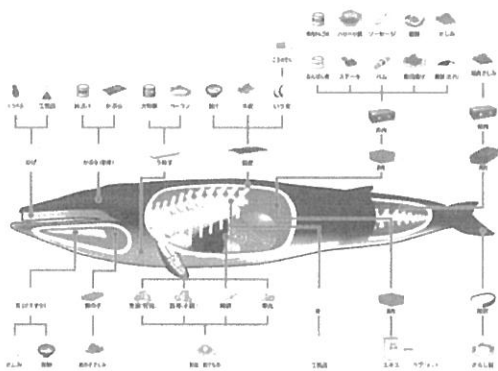


くじら供養碑

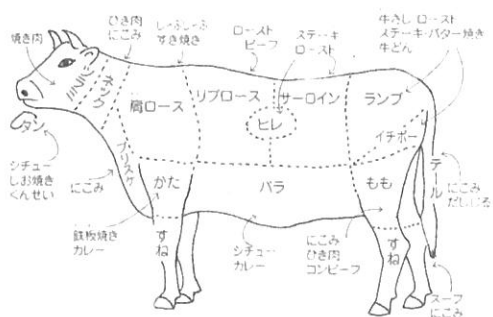


二学期が始まった。登校すると同じ  
 クラスのタカシがいた。タカシ、夏休  
 みの間にずいぶん背が伸びたな。  
 「おはよう、タカシ。背が伸びた。」  
 「おはよう。へへ、毎日牛乳飲んでた  
 からかな。あんまり好きやなかった  
 んけどな。牛乳は子牛を育てるため  
 の栄養や。ぼくも牛みたいに大き  
 くなりたいからな。牛乳パワーや。」

「昔から、くじらをとると、肉を食べるだけやなく、体の  
 全部をムダにしないように、大切に使用してきたんやで。」  
 そう言うお父さんが次に案内してくれたのは、岬の灯台  
 の近くにある「くじら供養碑」。  
 「これは、くじらたちへの感謝の気持ちをあらわしてつく  
 られたんや。りょうしさんたちの、いただいた命をそま  
 つにせんようにという思いやねがいがこめられているん  
 やなあ。」  
 そうか。だからいつもうるさく言ってたんや、お父さん。  
 「いただきます」のこと。  
 「知ってるか、サトコ。命に感謝する碑は奈良にもあるん  
 やぞ。」  
 え。本当、お父さん。



一般財団法人 日本鯨類研究所 提供



牛肉のしゆりとおもなりよう理

「なかま 小学校中学年 奈良県人権教育研究会編より」

やるな、タカシ。わたしも、おばあちゃんのところまで食べた魚パワ  
ーで体強くなってるかな。

「タカシ、大和郡山市にある『屠畜慰霊碑』って知ってる。お父さん  
に聞いてんけど、『なかま』の本に出てるって。牛や豚など人間の  
ために命をくれた動物たちに感謝するためのものなんやって。」

「おお、牛乳だって牛からもらってるもんなあ。」

教室で、タカシと「なかま」の本を見た。「屠畜慰霊碑」は大和郡  
山市にある食肉流通センターにあるそうだ。くじらの博物館で見たの  
と同じ。牛の命を大切にいただいていることが書いてあった。「なき声以外は、ムダにしない」  
だって。



屠畜慰霊碑

今日の給食は、魚。やっぱりちよつと苦手。でも、わたしに命をくれてる生き物たち。そ  
れに、生き物たちの命を食べ物として届けてくれるたくさんの人たちがいるんだ。いつもより  
大きな声でわたしは言った。  
「いただきます。」

○ 「くじら供養碑」を見て、サトコはどんなことを考えたのでしょうか。

○ いつもより大きな声で「いただきます。」と言ったサトコは、どんなことを考えた  
のでしょうか。

○ 食べ物を大切にしたい、感謝して食べたいと思ったことはありませんか。



道徳ワークシート

名前( )

いつもより大きな声で「いただきます。」と言ったサトコは、どんなことを考えたのでしょうか。





## 2 高学年用「鑑真」 指導例

当時の朝廷から要請を受けて苦勞の末に唐から渡日し、戒律を伝えた奈良時代の名僧 鑑真を本資料では取り上げている。鑑真は、戒律のほか、薬草など当時の唐の多くの知識を日本に伝え、悲田院をつくって貧民救済にも力を尽くしており、その功績は広く知られている。鑑真建立の唐招提寺には国宝の鑑真和上坐像が所蔵されているが、鑑真の没後1250年に合わせ、常時公開できる模像「お身代わり像」が制作され、平成25年6月に唐招提寺において公開された。こうしたことも取り上げ、今も変わらない鑑真和上への人々の敬愛の念を考えさせたい。

学習展開においては、何度も渡日に挑戦し失敗したことや榮叡<sup>ようえい</sup>の死、失明などの逆境にあるとき、またそれらを乗り越えたときの鑑真の心情に共感できるようにする。さらに、渡日した鑑真が、仏教の授戒について伝えただけでなく、民衆のために力を尽くしたことから、人々のために力を尽くそうとする鑑真の志に共感できるようにし、鑑真の不撓不屈の精神がどこからきているのかについて、ワークシートに書き込むことなどを通してじっくりと考えさせることが大切である。終末に「心のノート」（平成25年度版）を活用するなど、鑑真の生き方から自分なりに学びたいことを考えさせ、自分の目標をもち、それに向かって着実に進もうとする意欲を温められるようにしたい。

◆ **主題名** 決意をつらぬいて 指導内容 高1－(2)

**資料名** 鑑真 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ **ねらい**

度重なる苦難を乗り越えて渡日し、仏教の授戒をはじめ様々な知識を日本に伝えた鑑真について話し合うことを通して、自分の目標に向かってくじけず希望と勇気をもって取り組み、やり抜こうとする態度を育てる。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1、「お身代わり像」の写真を見て話し合う。	○ この像を知っていますか。 ・お坊さんだな。誰だろう。 ・まだ新しい像だな。 ・もっと古い鑑真の像を見たことがある。	・自由に話し合わせ、本時の資料への導入とする。	



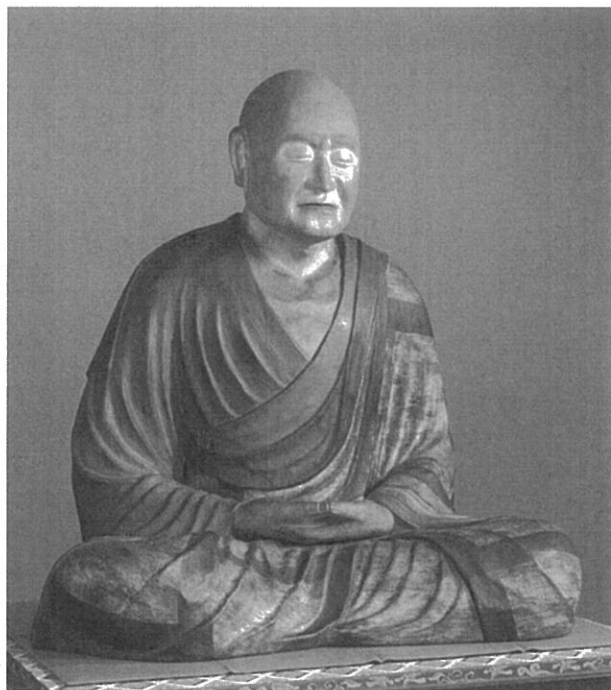


二〇一三年六月、奈良県の唐招提寺で「お身代わり像」が公開された。この「お身代わり像」は、国宝である「鑑真和上坐像」に似せてつくられた像で、全国から訪れる参拝者に常時公開できるように、鑑真がなくなつて一二五〇年になる年に合わせてつくられたものである。「鑑真和上坐像」は、唐（昔の中国）の僧、鑑真の弟子が鑑真の生前につくり上げたもので、今回、本物と同じ材料を使って同じ方法で「お身代わり像」はつくられた。つくった方は、「制作の終わりのころは鑑真の弟子になった思いだった。」と話されたそうだ。

鑑真は、中国の唐の時代に揚州というところで生まれた。十三才のときに父に願つて僧になつた鑑真は、やがて、多くの弟子をかかえ、名僧として仏教のために力を尽くすようになった。ある日、鑑真のもとを、日本から来た二人の僧が訪れた。

「日本に来て、仏教の教えを広めていただけじゃないでしょうか。」

日本には、早くから仏教は伝わっていたが、それを正しく教えてくれる僧はいなかったのだ。鑑真は、その場にいた大ぜいの弟子たちに、

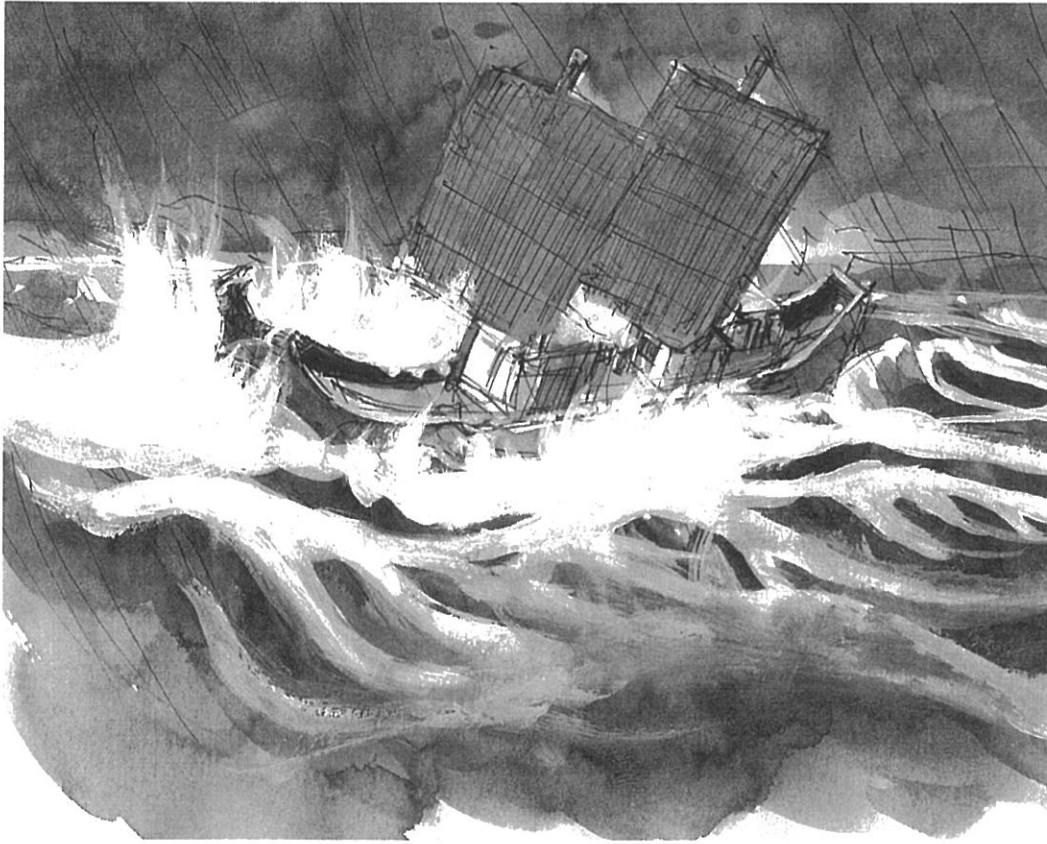


お身代わり像

撮影：飛鳥園

「もっともあなたのみだ。だれか日本に行こうという者はいないか。」  
とたずねた。しかし、遠い日本に命の危険をおかして行くとはだれも答えられない。やがて鑑真は言った。

「それならばわたしが行こう。」



弟子たちはおどろいた。やがて、鑑真の決心が固いことを知った二十一人の弟子たちが、おともをして日本に行くことになったのだった。

しかし、そこからが大変だった。鑑真が日本に行くことをおしんだ人たちの妨害にあい、せつかくつくった船を役人に取り上げられてしまった。新しい船を買い入れ、何とか船出をしたものの、今度はあらしにあってそう難してしまふ。寒さに加え、うえとかわきに苦しめられた鑑真たちは、やっとのことで助け出されたのだった。

そのとき世話になった寺でも、鑑真はひまさえあれば人々に仏の教えを説いた。そんな鑑真に、寺の僧たちはずっとこの地にいてほしいと願った。

「ありがとうございます。しかし、わたしには遠い日本の国へ行つて人々に仏の教えを説くといふつとめがあるのです。」

それから、鑑真一行には何度も何度も苦難がふりかかった。十年あまりの間に五回も日本行きを計画したが、全て失敗してしまつた。五度目の航海では、あらしのために十四日間も漂流し、沖繩よりはるか南にある海南島に流れ着いたのだった。

海南島からもどる途中、日本から来た僧の一人栄叡がなくなつた。

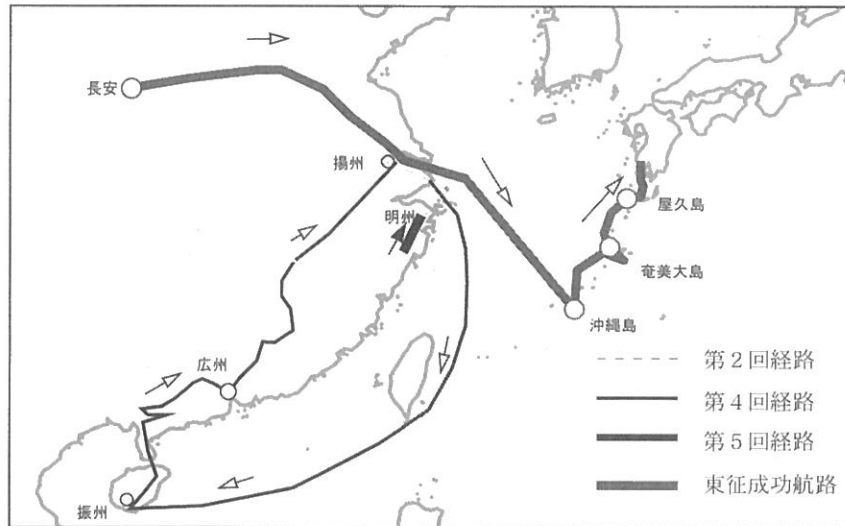
「栄叡、あなたといっしょに日本へ行きかけた……果たせないまま、あなたを死なせてしまつた……。」

失意の鑑真に、暑さと疲労がさらに追い打ちをかける。とうとう、鑑真自身も病のために視力を失つてしまつた。

それでも鑑真は、決してあきらめることはなかつた。

初めて鑑真が日本行きを計画してから十年がたった七五年、遣唐使（日本から唐へ送られた使いの人々）がもどる船に乗って、鑑真たちは日本へ向けて六回目の出航をしたのだった。あれる海の中、やつこのことで鑑真を乗せた船は薩摩の国（今の鹿児島県）にたどり着いた。そして、七五四年一月、とうとう鑑真は奈良の都、平城京に到着した。日本へ行くことを決意してから十二年目のことだった。

鑑真が渡日した経路

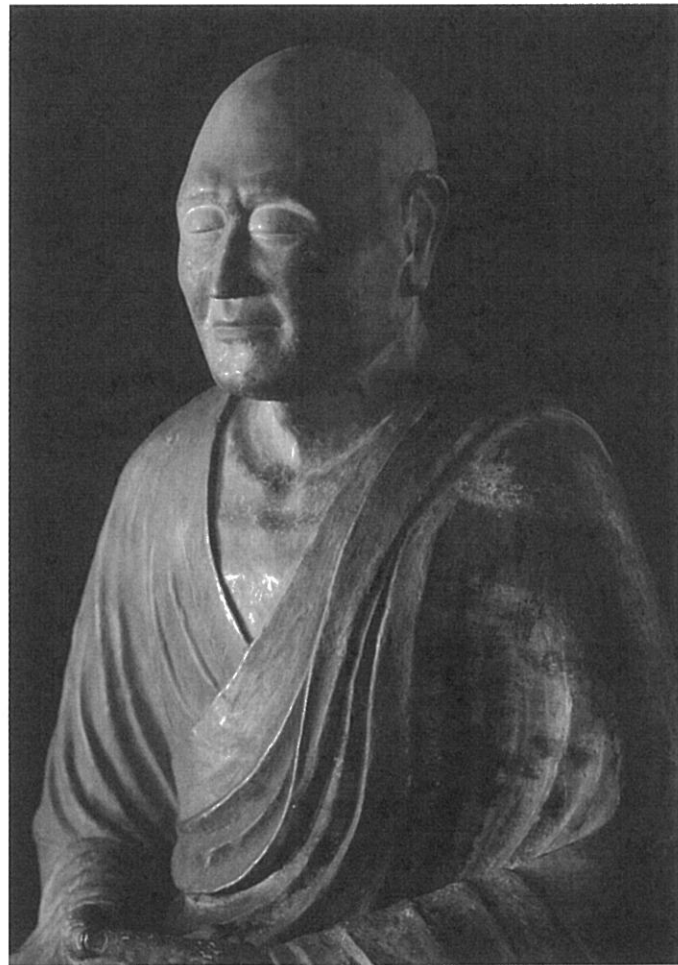


「唐大和上東征伝」より

鑑真をむかえた当時の日本の人々、朝廷の人たちだけでなく一般の民衆からも大変とうとばれながら、鑑真は十年の間、仏教の教えを広めた。また、それだけでなく、中国の最新の医薬などを助けるためにも力を尽くした。

七六三年五月、鑑真は西の方を向いて座ったままなくなったと伝わっている。鑑真がなくなる少し前、弟子たちは鑑真の姿を写し取ろうとして像をつくったそうだ。その像は、一二〇〇年以上の時をこえ、今も唐招提寺に残されている。それが「鑑真和上坐像」なのだ。

今も、鑑真を慕い、鑑真の行いを決して忘れまいとする多くの人々が、唐招提寺を訪れている。



鑑真和上坐像

撮影：飛鳥園

○ 平城京に到着したとき、鑑真はどんなことを考えたでしょう。

○ 鑑真が日本にたどり着くことができたわけを考えてみましょう。

奈良県教育委員会

<http://www.pref.nara.jp/18608.htm/>



道徳ワークシート

名前( )

鑑真が日本にたどり着くことができたわけを考  
えてみましょう。

